

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 地域学校協働活動の取組事例

「移動こども図書館事業」(岩手県 大船渡市 陸前高田市)

取組の概要や経緯

震災の苦難を乗り越えたくましく生きる力を身につけるには、読書も大事な学びのひとつであり、そのための読書環境の充実が求められる。その読書活動の推進を通じて、子どもを中心に据えながら、住民がつながり支え合い、信頼関係を軸に地域コミュニティの再生および活性化を目指すものである。



内容

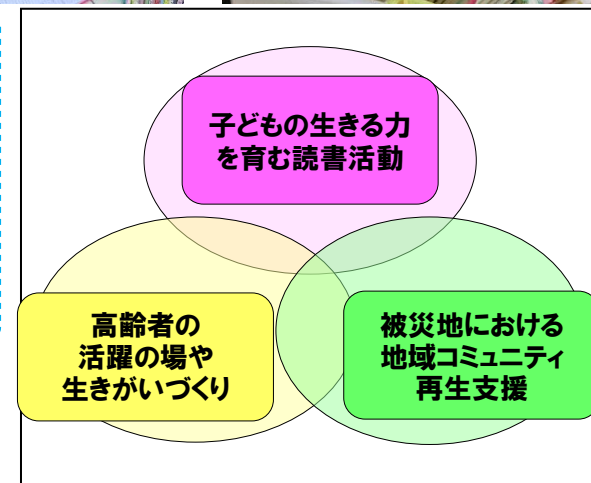
図書支援コーディネーターが、スキルアップの研修を積みながら、図書の配本や啓もう活動イベント企画、傾聴活動等、地域に根ざした活動を展開。通年で、専用図書車両を用い、教育機関や小規模な施設等を定期的なきめ細かく巡回訪問し、図書資料の供覧と貸し出しをおこなう。訪問時には絵本の読み聞かせや図書レファレンス、保護者からの相談に対応。仮設住宅・災害公営住宅・地域集会所では、図書貸し出しの他に、本や雑誌の無償提供と安価な古本市を開き、簡易のお茶会で会話と交流の場づくりをする。読書環境の推移の把握を目的に、小学校高学年に一斉アンケート調査をおこない、関係各所に情報提供する。

ポイント

- ① 小学校には図書配本の他にも薦め本情報掲載の「ころりん新聞」を年6回発行。
- ② 子育て支援団体訪問時では「読み聞かせ」が特色ある活動として前面に。
- ③ 住民参加のお茶会が活発で、子どもとの交流にスムーズにつながられる。
- ④ 教育機関等の連携先との信頼関係が強固。

成果

- ・ 保護者、地域住民、学校、行政、他子ども支援団体との連携強化により、双方にとっての成果をあげながら、当事業においても充実が図れた。
- ・ 読書環境アンケート調査が教育機関において、定着が図れた。結果の共有が連携継続につながった。
- ・ 受益者目線で活動内容を細分化したことにより喜びの声を多く聞くことが出来た。



今後の方向性

- ・ 保護者と住民と子どもとの交流の機会を増やし、当事業の目的へ向け、推進を加速させる。
- ・ 大人からの働きかけにとどまらず子どもから大人に対し行動を起す活動も手掛けていく。
- ・ 東日本大震災を経た岩手県沿岸南部が、読書推進活動によって活気づいたモデルケースとなる。